



研究・研修報告書

令和6年11月1日

小牧市議会議長 様

会派名 公明党小牧市議団
代表者氏名 加藤 晶子

研究・研修の結果を報告します。

記

1 参加議員

加藤晶子、星熊伸作、佐藤早苗

2 日程

令和6年10月17日（木）～10月18日（金）

3 研究・研修名

第86回全国都市問題会議

4 主催者

全国市長会

5 会場

アクリエ姫路

6 受講の目的

人口減少・少子高齢化が進む社会において、「誰一人取り残さない」市民の一生に寄り添う都市政策としての「健康づくり」とは何かについて考える為である。

7 主な内容

感染症の脅威や少子高齢化への対応、そして国民の健康づくりの重要性がここ数年で大きく高まっている。住民、国、自治体のいずれにとっても負担増が懸念される中、生活習慣病による健康リスクの低減や健康寿命の延伸など、行政等による住民の健康づくりへの支援が重要となっている。政策実施において自治体が果たすべき役割や遂行上の課題について論議が交わされた。

8 所感・提言・課題等

国において、2055年には人口が約3割減少、総人口の約4割は65歳以上の高齢者になるとと言われ、超高齢社会はさらに深刻化すると言われています。高齢化により、身体活動の制限がかかると、社会活動の場が失われるとともに、地域交流や経済活動の停滞を招きます。こうした時代背景の中、行政機能の維持、社会資本の更なる発展のためには、多くの方々がより長く健康を享受できる環境づくりや健康寿命延伸を図る事業が重要になると思います。

・「歩くこと」による身体機能への効果は大きく、1日8000歩以上歩くことによって骨粗鬆症や動脈硬化、高血圧の予防効果が確認されているほか、1日10000歩以上歩くことによって、糖尿病の新規発生率を著しく低下させることが出来ると言われています。本市におきましても「alko アルコ」や来年オープンする「ヘルスラボこまき」等の健康事業については、より周知を進めるとともに、歩きたくなる環境（景観・ハード）の整備等、個人の行動変容を促すために常にプラッシュアップとその仕組みづくりをしていかなければならない。そして市民の健康増進からくる医療費削減などのメリットを、健康増進のみで完結させることなく、観光の支援や子育て支援の更なる推進など、行政資源の有効活用に繋げて参ります。

・今後は市民の健康データの解析にAIを用いることは有効であると思う。
・誤嚥性肺炎による死亡数の増加が著しい。65歳以上の高齢者約3分の1が嚥下障害である。嚥下障害者の誤嚥防止、嚥下機能改善のためのシステム機構は喫緊の課題となっている。歌唱が嚥下機能向上に効果的であることがわかりました。歌唱の推奨を取り上げ、それを広げることで高齢者の嚥下機能維持をして参りたい。